

事業実績書

団体名	白石地区地域づくり協議会
-----	--------------

1 地域づくりの活動方針(テーマ)

みんなでつくる住みよいまち・白石

2 今年度、重点的に取組んだ視点(事業)

①	視点	「みんなでつくる住みよいまち・白石」の実現を図るため、地域課題を的確に把握し、課題解決の手段としての事業を計画すべく第4次地域づくり計画(令和8年度～12年度)を策定する。		
	事業名	第4次地域づくり計画策定	決算額	1,312,103円
②	視点	地区住民同士やSL乗客等他地区住民との交流促進を図るため「SLやまぐち号」の停車駅であるJR山口駅において「やまぐちえき」応援おもてなしイベントを開催する。		
	事業名	「やまぐちえき」応援イベント	決算額	250,028円
③	視点	子どもからお年寄りまで家族ぐるみで参加していただき、地域の伝統文化に触れる事により、郷土愛を育み、以って地域住民の連帯感や絆を深める。		
	事業名	ふるさとまつり参加促進事業	決算額	348,579円

3 今年度の重点的視点(事業)に対する評価

検証(成果、来年度以降への改善点等)		自己評価
①令和6年11月に設置された第4次地域づくり計画策定委員会において、令和7年4月から令和8年2月まで毎月委員会を開催し、令和8年度から令和12年度までの白石地区地域づくり計画の策定を行った。 策定委員会では地域が抱える課題等を把握するため、前回に引き続いて地区住民2,000人を対象に住民アンケート調査を実施し、その集計結果から見えてきた解決すべき課題を選定した。その課題を解決する手段として、20の具体的な個別事業について実施団体等と協議を行い、第4次地域づくり5ヵ年計画を策定した。住民アンケートに関しては、対象者を18歳以上から16歳以上へ引き下げ、また住民アンケートとは別に小中学生対象のアンケートを実施することで、若い世代の意見も取り入れることができた。		○
②山口駅においてSLおもてなしイベント活動、JR山口駅ロータリーの環境美化活動、ご当地写真展、山口駅周辺において観光ボランティア「てくてくウォーキング」を実施した。 おもてなしイベントは、5月・8月・10月・11月・12月の5回実施した。おもてなしイベント来場者の中には広報誌やSNSを見て来られる方々が増えた。今後も広報誌やSNS等を活用し、参加促進へつながるよう期待する。 今年度は10月に開催された山口DCプレキャンペーン特別企画のため、毎年JR山口駅待合室で行われる「ご当地写真展」の期間を一ヶ月に延長した。また、10月22日の全国宣伝販売促進会議の企画運営業務の開催に際し、300名のお客様をホームでお迎えをした。 今後も、おもてなしイベントの実施、JR山口駅ロータリーの環境美化活動、写真展の開催、観光ボランティアを継続し、白石地区および近隣地域の魅力を発信する本事業を深化させ、地域内はもとより他地域交流の礎としたい。		○
③【ほたるまつり】 実行委員会メンバー他有志で、クリエイティブ・スペース赤れんが前広場において無料休憩所の設営・運営及び交通警備を行った。総勢30名の参加があった。 【祇園祭】 お神輿担ぎ手131名、直会78名の参加があった。食推の皆さん(延べ13名)が、お神輿担ぎ手のために「力むすび」等を手造りした。総勢222名の参加があった。 【山口七夕ちょうちんまつり】 8月6日の願事短冊の飾付に児童等138名の参加があった。一の坂川西京橋から千歳橋までの兩岸においてミニちょうちんツリーを設置(飾り付け・点灯)に白石小・中PTA&生徒・JR実行委員会等125名の参加があった。今年度は二日目雨が予報で中止にした関係で参加者が263名となり、昨年度と比べて76名の減少となった。 今後については、より多くの地域住民(とりわけ子育て世代と子どもたち)が参加してもらえるような、より楽しい企画を検討し、実施する。		○

4 総括

今年度は、交付金の活用によって、専門部会、実行委員会等を中心とした地域課題の解決に向けた取組みが進んだ。また、特別交付金を活用して、若い世代が地域行事に参加し、現役世代やシニア世代との交流を図る機会を作る事が出来た。

今後については第4次地域づくり計画に基づいて、地域課題を解決するための手段としての事業を企画し(P)、地域住民が主体となって遂行し(D)、事業結果(効果)を検証し(C)、改善する(A)ために、地区住民同士が自由に話し合える場づくりに重点的に取り組む。

5 事業内容

(1) 協議会運営

事業費	8,404,651円(内予算外収入:2,500,000円(コミュニティ助成事業助成金)、6,336円(利息))
事務局の 運営体制	(事務員等の雇用人数) 事務局長:1名、事務職員:3名(1名は9月まで) (運営費の主な内容) 事務局人件費、事務費、コミュニティ助成事業助成金の活用 (成果・評価) 新会計管理システムの運用により、適正な資金管理(財務会計業務)ができた。 (今後に向けて) ムダ・ムリ・ムラを無くし、効率の上がる適切かつ円滑な事務運営に努める。

(2) 地域振興

事業名	地域づくり活動参加促進
事業費	173,366円
事業概要	(実施内容) 地域課題の解決に向けて、専門部会、実行委員会等運営態勢を構築する。 (実施時期) 通年 (参加人数) 186人 (成果) 各専門部会等の運営に関わる人たちの参加意識の向上が図れた一方、理事等役員との交流により、協力体制が構築できた。 (評価) 今年度における専門部会の出席率が71%となり、昨年(81%)と比較して10%減少した。 また、専門部会、実行委員会の参加人数は186名であった。 (今後に向けて) 地域の将来像や地域課題解決のために実施する事業の情報を地域住民同士が共有し、地域活動が積極的に展開されるよう、地域づくり活動に参加する地域住民、とりわけ地縁者の増加促進を図る。 また、地域づくりに関わる啓発研修会や自由な意見交換会等を開催するなど啓発活動に取組む。

事業名	広報活動
事業費	643,712円
事業概要	(実施内容) 広報誌配布、公式ウェブサイト運営、SNS投稿(Facebook・Instagram) (実施時期) 通年 (参加人数) 5人 (成果) 広報誌:全戸配布11回、公式ウェブサイト:13回更新、SNS累計304回投稿 Instagramフォロワー数259名→345名(86名増加) (評価) 広報誌を毎月発行、公式ウェブサイトを適宜更新、SNSを活用した情報発信により、各事業の開催案内や結果報告等の周知を図ることができた。 (今後に向けて) 次年度も、引き続き広報誌の毎月全戸配布、公式ウェブサイト等を適宜更新し、情報発信チャネルを強化する。今後もSNSを活用したタイムリーな情報提供を行い、地域住民の方々へ活動状況を発信する。

事業名	第4次地域づくり計画策定
事業費	1, 312, 103円
事業概要	(実施内容) 第4次(令和8年度～12年度)白石地区地域づくり計画の策定 (実施時期) 令和7年4月～令和8年2月の第1木曜(1月、5月は第2木曜、2月は2月6日(金)) (参加人数) 23人(策定委員メンバー14人) (成果) 令和8年度から12年度までの白石地区地域づくり計画にむけて、現状課題を見つけ、解決するための事業を実施団体等と協議を行った。 (評価) 現状の課題を解決するための事業をまとめる事が出来た。 (今後に向けて) 策定された地域づくり計画をもとに、「住みよいまち白石」の実現に向け取組んでいく。

事業名	「やまぐちえき」応援イベント
事業費	250, 028円(内予算外収入:34, 000円(てくてくウォーキング参加費))
事業概要	(実施内容) JR山口駅ホームにおいてSLやまぐち号おもてなしイベント開催。JR山口駅ロータリーの環境美化活動。市内観光「てくてくウォーキング」開催。JR山口駅構内待合室において白石地区の魅力を発信するための写真展開催。 (実施時期) 令和7年5月、6月、7月、8月、10月、11月、12月 (参加人数) 16人(実行委員会メンバー)・支援者6名 (成果) SLやまぐち号のおもてなしイベント、ご当地写真展、観光ボランティア「てくてくウォーキング」等を開催し、利用者や近隣住民の皆さんへ白石地域の魅力を発信した。実行委員や支援者の地域活動における協力体制への意識が高くなり、自発的に行動できるようになった。 (評価) JR山口駅待合室での『ご当地写真展』では、今年度は山口DCプレキャンペーンの関係で、展示期間が一ヶ月に延長されたことで、より多くの方に白石地区および近隣地域の魅力を発信することができた。 白石歴史探訪の会とコラボ開催である観光ボランティア「てくてくウォーキング」では、参加者との交流を深めることができた。 (今後に向けて) 今後も継続してJR山口駅のおもてなしイベントの実施、ご当地写真展の開催、駅前ロータリー清掃を実施する。 また、6・10月の観光ボランティア「てくてくウォーキング」については、来年度も白石歴史探訪の会とコラボして実施したい。 白石地区および近隣地域の魅力を発信する本事業を深化させ、地域内はもとより他地域交流の礎としたい。

事業名	白石地区親睦大運動会開催支援(プロジェクト事業)
事業費	0円
事業概要	(実施場所) 白石小学校グラウンド (実施時期) 5月18日 (参加人数) 約550人 (成果) 関心を引くコンパクトな広告、子どもたちが参加したくなるプログラム作りをし、少人数化や年齢・性別の緩和、気軽に参加できる種目の充実もあり参加者増に繋げることができた。 (評価) 玉入れを全員参加競技としたことで一体感を味わっていただいた。参加自治会以外からの参加者が増えた。 (今後に向けて) 子どもの少ない自治会の参加が少ない為、子どもから高齢者まで参加可能な種目の導入をしたい。

事業名	白石フェスティバル開催支援(プロジェクト事業)
事業費	0円
事業概要	(実施内容) 子どもからお年寄りまで多くの地区住民の参加による親睦イベントとして開催。 (実施時期) 11月16日 (参加人数) 約4,500人 (成果) 昨年度に引き続き、白石中学校とスポーツ協会が連携し、新たなブースを展開した。今年度は企画、運営の段階から主体的に関わってもらうことで、フェスティバルの魅力を一層高めることができた。 (評価) 地区内の小中学生がボランティアとして参加し、運営の一翼を担ったことも特筆すべき成果である。さらに各地域団体も合わせ、地域一丸となってイベントを盛り上げることができた。 (今後に向けて) より多くの地域住民が積極的に参加できる仕組みを検討し、さらなる交流の活性化を図りたい。

事業名	自治会親睦活動支援
事業費	150,000円
事業概要	(実施内容) ヴェルテ白石町内会「納涼夏祭り」 今道・大附自治会「5自治会合同サマーフェスティバル」・今市自治会「福部童子祭」 荒高自治会「もりさま祭り」・西惣太夫町内会「小さな秋祭り」 (実施時期) 令和7年7月26日・8月16日・8月25～26日・9月6日・10月18日 (参加人数) 延845人 (成果) 【納涼夏祭り】80名の参加があった。模擬店のわたがし、ポップコーン、かき氷は大変好評だった。ボランティアスタッフも飲食を楽しみながら自発的に行動出来ていた。 【5自治会合同サマーフェスティバル】200名の参加があった。催し物として綿菓子を追加したほか、魚釣り、射的、ボール運びを実施した結果、共に大好評だった。 【福部童子祭】70人の参加があった。幼児を含む子供達や親と地域住民とのコミュニケーションがとれた。 【もりさま祭り】400名の参加があった。今年度はステージを設営し自衛隊音楽部をはじめ6団体のパフォーマンスで祭りを盛り上げた。 【小さな秋祭り】95名の参加があった。当日はあいにくの雨が降り始めたが、無事に終了する事が出来た。 (評価) 【納涼夏祭り】子ども会がない為、花火大会を行ったところ大好評であった。 【5自治会合同サマーフェスティバル】外部人材や高校生・中学生にお手伝いをお願いして、当日の運営を乗り切った。 【福部童子祭】地域の年齢差がある子ども達と一緒に遊んだりできる貴重な場となった。 【もりさま祭り】昨年同様、白石地区スポーツ協会・白石地区青少年健全育成協議会、白石小中学校おやじの会、学生ボランティアのご協力をいただいた。 【小さな秋祭り】雨が降って、一時屋内に避難したが、避難場所への誘導や混乱を避けての冷静な移動が出来た。 (今後に向けて) 今後については高齢化が進む中、役員の負担軽減、他団体の協力をいただきながら、伝統ある祭りを継続をしていきたい。

事業名	ふるさとまつり参加促進
事業費	348,579円
事業概要	(実施内容) 【ほたるまつり】は無料休憩所の設営・運営および交通警備を行った。 【祇園祭】は御神幸・御還幸のお神輿担ぎ募集・直会を開催した。 【ちようちんまつり】8月6日に白石小・中PTAを中心に、ミニちようちんツリー点灯・願い事短冊の飾付を実施した。 (実施時期) 令和7年5月31日・令和7年7月20日・27日・令和7年8月6日 (参加人数) 515人(スタッフ等協力者延人数) (成果) 【ほたるまつり】参加者30人 【祇園祭】参加者222人 【山口七夕ちようちんまつり】参加者263人 白石小学校・白石中学校のPTA関係者の多くの協力を得た。 (評価) 事前に会議を行い、最終確認をしたことから、事前準備、お祭り、片付けまで円滑に実施できた。 (今後に向けて) 伝統文化活動を通じて、子どもからお年寄りまでの三世代間の交流を促進する。とりわけ、自治会連合会を通じて、各单位自治会から最低1名程度の参加を実現したい。

事業名	小中学校交流イベント「逃走中」
事業費	54, 986円
事業概要	(実施内容) おやじの会の会員や中学生ボランティアがハンター(鬼)に扮し、本気で児童を追いかけるいわゆる鬼ごっこを実施した。本来であれば12月20日に実施予定であったが、昨年に引き続きインフルエンザの蔓延、天気不順が重なり、2月21日に延期し、実施した。 (実施時期) 令和8年2月 (参加人数) 164人 (成果) 当日は、児童153名、ボランティア中学生11名が参加し、2月とは思えない暖かさの中で、元気いっぱいグラウンドを駆け回っていた。 (評価) 昨年度反省を生かし、さくら連絡網による以外にもリマインド配信や紙面での案内を行った。 (今後に向けて) この事業の認知度をあげて参加者を募り、より一層地域の絆が深まるきっかけづくりとなることを目標に頑張っていきたい。

事業名	次世代の地域の担い手育成支援
事業費	257, 458円(内予算外収入:150, 000円(特別交付金))
事業概要	(実施内容) 子どもたちが楽しめる新たな行事の企画 交流センター脱出ゲームの開催(特別交付金を活用) 各団体の新規イベント(中高校生が参画)実施への協力 講演会支援(しらっぴープロジェクト)、ラジオ体操(青少協)、三世代交流クップ大会(スポ協) (実施時期) 令和8年3月29日、令和7年5月31日、8月1日、令和8年3月22日 (参加人数) 300人 (成果) 各団体が子どもたちのために企画した事業の支援を行った。 (評価) 子どもたちの地域行事へ参加する機会が増えた。 (今後に向けて) 来年度はもっと子供たちが地域活動に参加してもらうよう、事業を拡大していく。

(3) 地域福祉

事業名	チャレンジ健康づくり
事業費	92, 571円
事業概要	(実施内容) ACP/Nスポーツを中心に11回実施した。各回中学生ボランティアの応援を受け、子ども中心のACPを行い、終了後の希望者によるニュースポーツ教室を実施した。従来型講座形式での活動は、「転倒を防止し、10才若返る体作りにチャレンジ!」をテーマとして5回実施した。 (実施時期) ACP/Nスポーツ: 令和7年5月～令和8年3月 講座: 令和7年9月、10月、11月、12月、令和8年1月 (参加人数) 670人(スタッフ延人数) (成果) 今年度は、ACPを中心に行い、延520人の参加があった。ニュースポーツは、クップをメインにラダーゲッターを加えて、園児から高齢者まで幅広い参加を頂き、楽しく運動して有意義な時間を共有頂けた。従来型講座形式での活動は計5回実施し、延べ150人参加。回を重ねる毎に参加者が増え、最終回となった第5回は49名とコロナ以降では最多の参加者数となった。 (評価) ACPを中心とした活動の中で、ボランティアスタッフとして白中、附属中生徒に参画頂き、学校の枠を超えたボランティア交流が生まれた。また従来型講座形式での活動も、新規参加者が増えて、充実した活動ができた。 (今後に向けて) 更により多くの方に参加いただくため、より健康志向、健康寿命の延伸をテーマに企画していきたい。

事業名	健康食のおススメ
事業費	92, 320円
事業概要	(実施内容) 生活習慣病予防に役立つ食生活の習得を目的とした「男性料理教室」や、カルシウム摂取に特化した「生涯骨太クッキング」を実施した。山口祇園祭では、白石地区の神輿担ぎ手に手づくりおむすびを提供した。チャレンジ健康づくり最終回に健康食弁当を作り提供した。広報誌にカルシウムが摂取できる等のレシピを3回掲載した。 (実施時期) 令和7年5月、7月、9月、10月、11月、令和8年1月、2月 (参加人数) 26人 (成果) 「男性料理教室」では食事のバランス改善を考えると共に、「食事を作る楽しさ」を感じてもらうことができた。「生涯骨太クッキング」では「食」を通しての健康づくりに意識が高まった。 (評価) 広報誌へのレシピ掲載、料理教室の開催等により、適正な塩分量や美味しくカルシウムを摂取できる料理の提案を行い、食育の大切さおよび食への関心を高める活動になった。 (今後に向けて) 来年度も、病気予防(健康維持)に役立つ様々な料理教室や、広報誌に健康食レシピを掲載するなど、幅広い活動を行う。 また、広報誌だけでなくロコミによる料理教室等の開催情報の周知に努め、参加者の増加を図りたい。 今後も「チャレンジ健康づくり実行委員会」と協働で健康食弁当を提案する。 より多くの地域住民の「食」に対する意識を高められる様、今まで以上に「食」を通じた健康づくりを地域の皆様に伝えていきたい。

事業名	グラウンドゴルフ参加促進
事業費	55, 039円
事業概要	(実施内容) グラウンドゴルフ大会を開催。 (実施時期) 令和7年6月(雨天の為、中止)、10月、11月 (参加人数) 46人(実行委員メンバー22人) (成果) 今年度は、春季は雨天の為中止となったため、秋季、地域づくり協議会会長杯の2大会を開催した。準備、運営はグラウンドゴルフ実行委員会が中心となって実施した。 (評価) 今年度は実行委員会の新規会員数が1名減少した。(2名増加、3名減少) (今後に向けて) 来年度は、今年度実施できなかった初心者向けの講習会や親子交流戦を実施することで参加者増に繋げていきたい。今後も練習会を毎週月曜日・水曜日・金曜日、月例大会を毎月第3水曜日に実施し、交流を図っていききたい。大会結果報告を広報誌に掲載継続する。

事業名	むかし遊び
事業費	5, 672円
事業概要	(実施内容) 白石小学校と連携して、新入生(1年生)を対象として実施。 (実施時期) 令和7年11月6日(木) (参加人数) 28人(実行委員会メンバー9人) (成果) 過去の参加者に案内ハガキを送付、また民生児童委員や部会員・白石小PTAに声掛けをした。28名の参加者があった。 高齢者と1年生の楽しく充実した交流が図れた。 また、お茶休憩を挟むなど時間配分を見直し円滑に運営する事が出来た。 (評価) 福祉部会員、民生児童委員、近隣住民、白石小PTA、そして白石小学校の先生の協力があり、スムーズに運営できた。子ども達も全部の種目で楽しそうに遊ぶ様子が見られた。 (今後に向けて) 新規のメンバーの発掘が近々の課題。より多くの方に参加してもらえるよう、広報誌で募集や過去に参加された方々へのお知らせを継続し、またその方々に対し知人等に参加を働きかけていただけるよう依頼する。

(4)安全・安心

事業名	危険防止看板設置等
事業費	0円
事業概要	(実施内容) — (実施時期) — (参加人数) — (成果) 申請事案がなかった。 (評価) — (今後に向けて) 来年度は第4次地域づくり計画に基づき、白石小PTAと青少協が協力して、子どもの交通事故等の危険箇所注意を呼び掛ける看板やステッカーなどの表示設置を積極的に展開していく。

事業名	反射鏡設置等
事業費	0円
事業概要	(実施内容) — (実施時期) — (参加人数) — (成果) 申請事案がなかった。 (評価) — (今後に向けて) 反射鏡等の設置費用の高騰もあって、ここ数年申請がない。来年度は補助金の上限金額をあげるなど、より申請をしやすい環境を整えていく。

事業名	自主防災活動参加促進
事業費	61, 135円
事業概要	(実施内容) 自主防災勉強会等開催。 山口県自主防災アドバイザー養成研修の受講により新たに認定自主防災士を養成する。 (実施時期) 令和7年4月～令和8年3月 (参加人数) 52名 (成果) 市認定防災組織・認定自治会等の増加に注力し、白石地区自主防災組織の構築に向けた支援を実施した。 自主防災士による防災勉強会を月1回定例開催した。 自主防災士による防災講座を自治会(町内会)会長等を対象として実施した。 19自治会にて自主防災訓練を実施した。 黄色いタスキ訓練、炊き出し等訓練、VRを使用しての災害の疑似体験をした。 (評価) 自主防災士認定者が3名増加した。 実動訓練では避難所を2箇所に設営したり、実行委員会を定例開催(毎月1回)したりするなど充実した活動内容となった。 (今後に向けて) 単位自治会(町内会)を対象として、地区自主防災士による防災講座を開催する。 市認定防災組織認定自治会(町内会)、認定自主防災士の認定を支援する。

事業名	夏休み防災訓練キャンプ実施
事業費	59, 905円
事業概要	(実施内容) 着衣水泳、防災食作り、消火・放水体験 (実施時期) 令和7年7月26日 (参加人数) 31人 (成果) 例年通り半日でのデイキャンプを実施した。 (評価) 普段の生活では教えてもらえない体験をする事で児童の関心を高め、防災について考えてもらう事が出来た。 (今後に向けて) 今年度も参加児童数については、目標まで及ばなかったが、小学校の先生方も多数参加され、児童への活動を通じて、学校での関心も高くなっている。 来年度も、学校や地域と協議の上、参加児童への呼びかけ方法等を検討し、十分な暑熱対策を講じて引き続き事業を進めていく。

事業名	安全パトロール
事業費	29, 915円
事業概要	(実施内容) 児童の登下校の安全見守り、挨拶運動 ボランティアへの児童の下校時刻予定表や情報、連絡網等の送付。 (実施時期) 通年 (参加人数) 26人(登録ボランティア数) (成果) 児童の通学時における安全確保を目的に学校とボランティアの連携が図られた。 (評価) 登録ボランティアの協力のおかげで児童の事件事故の被害事案はなかった。 (今後に向けて) 登録ボランティアの数が減少しているため、より安心・安全な町づくりのために、地域の広報誌等を通じて、登録ボランティアの増員を図っていき、参加人員の確保・拡大をしていきたい。

(5)環境づくり

事業名	環境美化・保全活動推進
事業費	93,455円
事業概要	(実施内容) 五十鈴川における草刈等清掃活動による環境美化・保全活動 (実施時期) 令和7年8月24日 (参加人数) 298名 (成果) 五十鈴川の美化・保全が図れた。 (評価) 白石小中学校83名、附属小中学校169名(内中学生152名)、近隣の自治会等より46名が加わり、総勢298名の参加があった。熱中症等事故なく安全に作業を終えることができた。反省会・直会では、今後の実施に向けて、忌憚のない意見交換ができた。 (今後に向けて) 学校関係、近隣自治会等へ主旨説明を行い参加要請をして行き、早目の始動、実行委員会の集合時間の変更、草刈り機の充足と使用者の確認を行い、環境美化・保全活動の深化・拡大を目指す。

(6)地域個性創出

事業名	白石歴史探訪の会
事業費	395,656円(内予算外収入:57,000円(史跡巡りバスツアー参加費))
事業概要	(実施内容) 講演会、広報誌およびHPにコラム掲載。講師(ガイド)による史跡巡りを実施。 (実施時期) 令和7年5月～令和8年2月 (参加人数) 講演会242人、史跡巡りウォーク・バスツアー45人(延べ人数) (成果) 今年度の講演会は、特別講演会を含め7回実施。参加者242名で昨年より12名増加した。史跡巡りは、予定通り2回実施し、参加者45名で昨年より7名減少した(小型バス利用の為)。 講演会・広報誌へのコラム掲載・史跡巡りにより、山口で行動・活躍した人物や史跡を詳しく周知することができた。「クイズ大会」は参加者100名で昨年より4名増加、全問正解者66名で昨年より4名減少、表彰者26名(延べ人数)を表彰し副賞を贈呈した。 「やまぐちえき応援イベント」協力は、参加者との交流を深めることができた。 (評価) 講演会・広報誌への連載コラムは「山口と大内氏」をシリーズで掲載し好評を得た。講演会は特別講演を含め7回、史跡巡りバスツアー・ウォークは2回開催し講師によるガイドの下、より深く知ることができた。 (今後に向けて) 今後も講演会及び史跡巡り等の実施を希望する意見が多くあり、白石地域に愛着を持ってもらえる様、希望される講演会、史跡巡りを実施する。